

瑞雲山善法寺、浄土真宗本願寺派
1556年(弘治2年)第1世惠善和尚が
阿戸村に臨濟山弘通寺派源光庵を創立。
1628年(寛永5年)広島寺町に寺院を移し、
寺号を「善法寺」と改めた。1705年(宝永2年)
浄土真宗に改宗、1928年(昭和3年)第16世
道宣大僧正が己斐に建て、寺町から移転、
1936年(昭和11年)本堂建設、現在に至る。

神功皇后が三韓征伐の途上「野立ち」
せられたと言われている。浅野時代はミ
カンの栽培が行われていた。
1907年(明治40年)頃、舟入町の大村文
太郎氏が、かいどうを植えて絶佳園と
名付けた。山上からの眺望は内海の景と
花木の美とが相応じて絶佳であった。
現在では石段が残るのみである。

200年頃、仲夏天皇のとき神功皇后が三
韓征伐の途上、その船団を率いて己斐
の「御船着」に到着され松山(後の旭山)
に登られ野立ちされた。この御船着は現
在も名残が残っており、旭山の南側の
山沿いの小道で高須との境界瀬切石より
100メートル手前辺りを超えて昔海岸
線だった様相を呈している。

長宗山清照寺西福院 御本尊は十一面観
音菩薩、並びに淡島大明神、1593年(文
禄2年)隆譽上人が中島本町に建立す。
1619年(元和5年)浅野長政公が広島へ
入封の折、淡島大明神を当山へ奉祀され
る。原郷によって焼滅、1957年(昭和32年)
己斐の旭山南西山腹に再建する。国の指
定重要文化財「紺紙金泥宝篋印陀羅尼經
(965年作)」がある。

320年を経た1778年(安永7年)己斐村
の人たちが墓を建てて供養した。
2基あるのは敵味方のためと言われる。
この墓はいつしか行方不明となっていたが
1926年(大正15年)に竹藪の中で偶然発見
された。同年8月に旭山共同墓に移された。

石臼内道の歴史めぐり(己斐橋から旧埤道經由己斐埤まで約3.1km)

⑪瀬切石



己斐村と古江村の境界地点を瀬切石とい
う。そのいわれは大昔このあたりは海岸
の波打ち際で岩場があり上流から流れて
くる流水が岩につきあたり瀬をなしてい
たので名付けられたのであろうと言われ
ている。
現在は小さな祠がある。

⑫植木屋次郎右衛門の墓



1619年(元和5年)紀州から、3代広島城
主として浅野長政公
が入府のとき、大阪の
社丹屋次郎右衛門が
社丹づくりのため
藩主に従って来た。
そして植木の適地と
して白羽の矢を立て
たのが己斐である。
しかし、この初代次郎右衛門は大阪へ帰
りその子が定住した。従ってこの墓は子
1代植木屋次郎右衛門の墓であらう。

⑬百花園跡と千手観音像



1883年(明治16年)に百花園が創設され
た。桃と梅が多く、四方の展望が素晴ら
し。特に雪見どころとして有名だった。
1885年(明治18年) 普門山慈眼寺(六角堂)
と稲荷が建立された。室には初代広島城
主毛利輝元公が城の守本尊として彫刻し
たと言われる「千手十一面観音菩薩像」
が安置してあった。この像は現在は新山
千手観音堂にある。

⑭河原中の御前社跡



大古、神功皇后が観音式をしたところ
とされ、祠と2本の黒松があった。こん
ぜんさんの黒松と親しまれ、明治の頃、
この祠を囲むように径100メートルくら
いの輪になって益園をしとされたとわ
れる。2本の黒松のうち1本は切られ
、残りの1本も平成3年頃に枯死してし
まった。現在は切株をとどめるのみである。

⑮蓮照寺



浄土真宗本願寺派、清原山蓮照寺と称す
開山は1717年(享保2年)長楽村の僧
玉による。己斐村に一字を建立したのが
蓮照寺であった。1871年(明治4年)本願
寺の公称を許可された。現本堂は1914
年(大正3年) 建設されたものである。
建物は1942年(昭和17年) 供出、鐘楼は被
爆焼失したが再興されなかった。

⑯光西寺



法輝山光西寺 浄土真宗本願寺派
1704年(宝永元年)に広島細工町西向
寺の弟子智境が百花園にあった庵寺教徳
坊を再興したと伝えられている。1879
年(明治12年)光西寺の寺号公称許可、
1910年(明治43年)中島町の西福寺から
移転して本堂建設、1942年(昭和17年)
梵鐘供出、1967年(昭和42年)梵鐘復元

⑰庄屋跡



己斐の訪れる偉人であった土井百穀の住
居跡である。代々の庄屋で母は越智氏出
身であった。景勝地紅葉谷に面しており、
丁度己斐村の中央に位置している。紅葉
谷を愛でながら、頻りに訪れる詩人、風
流人、旧友と酒を酌み交わし、軟談し
、議論されたという。越智塚碑がその名
残りを留めている。

⑱通玄石



明の国隠元禅師(日本黄檗宗の開祖)が
1655年(明隆興元年)に己斐の加々桑山(小
茶臼山)を訪れたとき、その山上からの
景色が故里通玄山のそれに似ていたた
ので「通玄山」と銘名、書に記した。こ
の書を広島藩の家臣寺西織部信之が
手に入れ、1674年(延宝2年)頃、小茶
臼山の自然石に刻した。

⑲森の大歳社



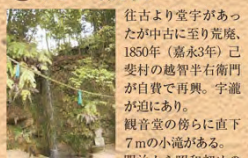
字大歳に在る。鎮座年限は不明である。
御神体は石である。祭神は大歳神で穀物
の守護神である。1906年(明治39年) 神
社奉告令が公布され、2年後の明治41年
一村一社として己斐町内の小祠が旭山
神社に合併された。大歳社の御神体も旭
山に遷されたが、地元の希望で元に戻
された。それ程に地元の信仰心が厚かった。

⑳坊僧観音堂



浄土宗、本堂は1532年(天文元年)己斐
村の石原新三郎が創建、1878年(明治11年)
再建。このお堂の位置が撒投げ跡、畑、
己斐村へ通じる道の交わりところにあ
り、高かつ本堂道に通じて広島へ至っ
ていたので格好己斐の道路元標の役割
を果たしていた。

㉑滝の観音



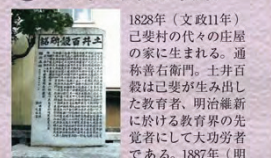
往古より堂宇があ
ったが古に幸り荒廃、
1850年(嘉永3年)己
斐村の越智半右衛門
が自費で再興。宇瀧
が道にあり。
観音堂の傍りに直下
7mの小流がある。
明治から昭和初め
の頃、避暑客や修験者
が多かった。
正式には法道山観音院教順寺と言
い、戦前には広島新四国八十八ヶ所
の第十一番だった。

㉒国泰寺



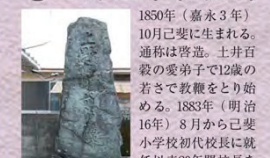
1978年(昭和53年)中区中町より己斐
三丁目己斐埤近くに移転された。戦前は誓願
寺、広島別院と共に広島3大伽藍の1つ。
開基は1594年(文禄3年) 僧惠理の臨濟宗
安国寺に始まる。開山は1619年(元和5年)
僧普照が曹洞宗国泰寺に改めたことによる。
浅野氏の菩提寺でもあった。境内には
浅野長政の墓や惠理、普照、大石良雄の
墓、歴代各住職、寺西信之等の墓がある。

㉓土井百穀碑銘



1828年(文政11年)己斐村の代々の庄
屋の家に生まれる。通
稱善右衛門。土井百
穀は己斐が生み出し
た教育者、明治維新
に於ける教育界の先
覚者にして大功業者
である。1887年(明
治20年)5月瀬切石
近くの国道筋に泉下
の有志、子弟が頌徳
碑を建立した。没後35
年を経た1917年(大
正6年)5月15日「百
穀翁追悼會」が町を
あげて盛大に行われ
た。その折、石碑旭
山神社下境内に移
された。

㉔上野旭峯彰徳碑



1850年(嘉永3年)
10月己斐に生まれる。
通称は善造。土井百
穀の愛弟子で2歳の
若さで教鞭をとり始
める。1883年(明
治16年)8月から己
斐小学校初代校長に
就任以来20年間校長
を務める。
明治44年に退職する
までおよそ半世紀の
間、己斐の子ども達
の教育に生涯をさげ
た。1913年(大正2
年)1月3日、教え子
たちが先生の徳をた
たえて碑を建てた。

㉕橋本調二翁頌徳碑



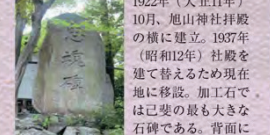
この頌徳碑は1961年(昭和36年)6月26
日有志によって建立。1884年(明治17年)
己斐に生まれる。熱血漢で己斐町民全
てに活力と勇気を与えたものである。己
斐町消防組にあること16有余年、大正
15年9月東京で全国消防組大会があ
った折、昭和天皇から「あの元気の良
いものは誰か」と下問されたという。

㉖大正天皇御即位記念樹



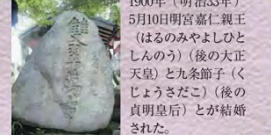
1915年(大正4年)11月10日新天皇(後
の大正天皇)が即位されたのを記念して
旭山神社参道の石段八合目あたりにこの
地に己斐町民が楠を植樹した。
2015年(平成27年)11月10日に植樹され
て100年を迎え、己斐で一番の大樹とな
った。周囲4.4m

㉗忠魂碑



1922年(大正11年)10月、旭山神社拝殿
の横に建立。1937年
(昭和12年)社殿を
建て替えるため現在
地に移送。加工石で
は己斐の最も大きな
石碑である。背面に
は戊申戦後からシベ
リア出兵までの戦死
戦病死者18名の氏名
が銘刻されている。
GHQ(連合国軍最高司令官総司令部)
により除去命令が出たが、当時の川本連合町
内会長がイメンを塗って糊塗した。

㉘雙翠萬古の碑



1900年(明治33年)
5月10日明宮嘉仁親王
(はるのみやよしと
しんのう) (後の大正
天皇)と九条節子(く
じょうさだこ) (後の
貞明皇后)とが結婚
された。
己斐村では若いお二
人の永久の繁栄を
願って参道の石段を
昇り降りした少し手
前右の地にこの「雙
翠萬古」の碑を建立
した。

㉙絵馬堂(旧社殿)



この絵馬堂は現在の拝殿があるところ
に江戸時代1843年(天保14年)に社殿と
して建てられたものである。
1937年(昭和12年)9月、社殿建て替
えのため現在地へ移設された。己斐町中
で最も古い由緒ある建物である。堂
内には舞楽の絵馬が掲げられている。

㉚旭山神社



200年頃神功皇后が松山に上られ野立
されたとき奉った鯉に大層喜ばれたこと
から地名を置いたこと16有余年、大正
15年9月東京で全国消防組大会があ
った折、昭和天皇から「あの元気の良
いものは誰か」と下問されたという。

己斐音頭

一、己斐の祭りのお祝いに
己斐の始まり旭山
八幡神社の物の起り
伝へ聞かすの物語り
音頭に乗せて言祝が
ん
二、己斐のいわれは其のむかし
神功皇后 出で給い
三韓征伐 その折に
鯉を献上 奉る
縣の主に 始まりり
三、時代は下って戦国の
動乱騒ぎのその最中
毛利の殿様 元就公
臨む朝の必勝を
出づ朝日の祈念して
名付け給ひし 旭山
八幡神社と 称したり
四、ずいと下って江戸の頃
己斐の植木屋次郎右衛門
上の堤に 始めた
植木・盆栽 その技術
明治・大正・昭和の代
代々伝えて 今の世に
己斐の植木と 賞さるる



作詞者 田中 茂武
作成年月日 平成28年4月1日

己斐の歴史年表

二〇〇〇年頃	神功皇后が鯉に大層喜ばれたので地名を「鯉」とした
七〇〇一	あき園さきき都理村誕生
七二一三	「好字」二字化(己斐)により安芸国佐伯郡己斐村とする
一六四〇	安芸国佐伯郡己斐村とする
一五五五	長寛二
一五八九	弘治五
一五八九	天正十七
一六一九	元和五
一六四四	寛文四
一八七一	明治四
一八七三	明治六
一八七七	明治十
一八七八	明治十一
一九一七	明治十四
一九二九	昭和四
一九四〇	昭和十五
一九八〇	昭和五五